

JOMF 派遣医師便り (2017.9)

◆シンガポール◆

40才以上の国民に検診

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールには日本で行われているような住民健診はこれまではなかったのだが、このほど全国規模での検診が行われるようになった。といっても、内容は日本のものとは同じではない。安価ではあるが有料でもある。対象は40才以上の国民全員(約180万人)で、最大で5つの疾患が5ドルでスクリーニング出来るというものである。これは“Screen for Life”というお知らせとして対象者一人ひとりに郵送された。5つの疾患とは、糖尿病、高血圧症、高コレステロール血症と女性には子宮頸がん、そして50才以上には大腸がんである。先ほど5ドルと申し上げたが、パイオニア世代^{※1}に属する人は無料である。実質67歳以上の方は全て無料ということになる。また、パイオニア世代ではないが、CHAS^{※2}を受けている人は2ドルで良い。この費用には結果が知らされた後の医師の診察料も含まれている。

こうした安価な全国規模の健診が行なわれることになった背景には生活習慣病の増加、人口の老齢化があると思われる。

1998年、18才から69才の人のうち11人に1人が糖尿病であったが、2010年の国民健康調査では9人に1人に増加していた。しかも、この調査で糖尿病と診断された人のうち半数以上が、自身が糖尿病であることに気がついていなかったのである。この数字は高血圧症では4分の1、高コレステロール症でも44%という高い値であった。

シンガポールは、現在、急速に高齢化が進んでいる。2016年の統計ではシンガポールの65歳以上の人口は全人口の12.4%であるが、これが2030年には19%を占めるようになると計算されている。

2016年の統計では虚血性心疾患、脳卒中、高血圧性疾患が死因の27.6%である。これらの疾患には生活習慣病が大きく関与していると考えられる。また、死因の1位はがんで死因全体の29.6%である。その内、男性では大腸がんは肺がんについて2位、女性では乳がん、肺がんについて3位である。診断数で見ると大腸がんは男性で1位で17%、女性でも乳がんについて2位で13%であった。診断数より死因では順位が下がるということはより治療の可能性が大きいという意味ともとれる。それが、今回のスクリーニングに組み入れられた理由のひとつなのではないかと推察する。

子宮頸がんが、今回の対象になった理由は明らかではないが、比較的若い世代に患者が多いことや、pap smear という比較的簡単な検査でスクリーニング出来、この検査が、シンガポールでは産婦人科専門医ではなく、一般医、家庭医が行なう検査となっていることから、導入しやすかったということも理由として考えられる。因みに女性が罹患するがんの中で診断数では10番目、死因では8番目である。

暫くは3年ごとに今回のような健診が行なわれるとのことである。今回の措置が、将来の

医療費の削減につなげられるかどうか、今回の措置はひとつの社会実験とも言えるかもしれない。今後の成り行きが興味深い。

註1 パイオニア世代

1950年より前に生まれ、1986年末までに国民となった人。シンガポールの独立、その後の国家発展に多大な功績があったとされる世代、現在、概ね、67才以上となる。

註2 CHAS

CHAS, 低中所得世帯対象の医療、歯科治療の助成制度、世帯所得により助成割合が異なる。